

資源機構の情報提供・調査研究事業の 平成16年度成果概要及び 平成17年度計画について

金属資源開発調査企画グループ

中国をはじめ BRICs 諸国の金属資源の需要拡大及びそれら国々による海外資源開発進出の活発化による鉱区獲得競争の激化、チリ、ペルー等資源国における鉱業に対する課税強化の動き、環境規制強化等による鉱山経営への影響の拡大、非鉄メジャー等の合従連衡による市場寡占化の進行等、非鉄金属鉱物資源を巡る世界情勢はこれまでに無い程著しい動きを見せており、従来以上にこれら国際的な資源事情に係る情報の価値が高まっています。

その様な状況を踏まえ、金属資源開発調査企画グループにおいては、平成16年度の事業実施に当たり、情報の定点観測・蓄積及び調査の継続性をキーワードとして、調査研究及び情報提供の在り方について検討を行い、日常的な情報発信、継続的な調査研究、特別調査研究という3つに分類し、我が国企業等に対する情報発信体系を構築しました。

平成17年度についても、この様な事業のフレームワークを維持しつつ、事業実施に当たっては我が国企業の探鉱投資開発戦略上の重要性から資源国を捉え、活発化している我が国企業等の海外資源ビジネス支援をより明確にしつつ各種調査研究を実施することとしています(表1)。

本稿においては、平成16年度事業成果及び平成17年度事業計画について、概要紹介を行います。

表1 資源機構の調査研究体系一覧

計画的な調査研究、情報発信の確実な実施			
日常的な情報発信	継続的な調査研究	特別調査研究	
【ニュースフラッシュ(毎週)】 ・世界の鉱業関係情報のヒックを海外事務所及び本部で要約し、発行 ・16年10月に著作権問題を整理し対応中 ・16年1月～12月で48件(記事数893) ・民間新聞での引用件数107件(16年1月～12月)	【資源開発環境調査】 ・世界の鉱産国88ヶ国における一般事情、政治・経済概要、鉱業概要、鉱業行政、鉱業関係機関、投資環境、地質・鉱床、探査状況等に関する最新情報を収集しとりまとめる。17年6月にHPにアップする予定。 ・17年度は、H16年度作成の資源開発環境について、海外事務所を通じて、変更点についてリバイスする。	【特別レポートの作成】 平成16年度 ・戦略的鉱物資源確保事業に係る投資環境調査(ロシア、カナダ、オーストラリア、中国) ・鉱業の持続可能な開発に関する国際調査 ・非鉄資源ビジネスと鉱業政策の歴史と変遷(銅を中心) 平成17年度 ・ベースメタル主要鉱山、既発見未開発鉱山等の供給構造分析 ・ベースメタル主要消費国の消費構造分析 ・鉛・亜鉛、ニッケル資源ビジネスの歴史と変遷 ・戦略的鉱物資源確保事業に係る投資環境調査 ・世界の探鉱投資による埋蔵量拡大への寄与度分析調査 ・世界の需要変動や生産コストに対応した鉱山別供給寄与度分析調査	
【カレントピックス(毎週)】 ・鉱山現地調査、国際会議等の各種情報ソースを材料にその背景や動向等を、議論を掘り下げて報告 ・テーマについては、海外事務所、本部で企画し執筆する。 ・16年1月～12月で58件(15年28件) ・民間新聞での引用件数8件(16年1月～12月)	【世界の鉱業の趨勢(1977年より)】 ・世界の主要鉱産国45ヶ国について、鉱業の概要の他、前年の主要鉱産物の生産・開発動向、輸出入量、主要企業の探鉱動向を重点的に調査しとりまとめる。17年7月頃発刊予定。	【金属資源レポートへの掲載】 平成16年度主要テーマ ・中国非鉄産業事情(11月、1月) ・豪州・カナダのジュニア企業の探鉱動向(1月、3月) ・ベースメタル企業の探鉱動向(1月) ・欧州環境規制動向(7月)	
【金属資源レポート(隔月)】 ・海外事務所からの現地レポートに加えてJOGMEC金属部門の活動成果の広報的な要素を盛り込んだ情報提供媒体。 ・アウトソーシング化を図り編集効率を向上	【非鉄メジャーの動向(1999年より)】 ・非鉄メジャー20社を対象に各社の企業概要・戦略及び動向をとりまとめる。2003年版は17年5月に発刊予定。また、2004年版を10月頃までに発刊予定。	平成17年度 ・各号で特集記事を掲載 ・2004年ベースメタル需給総括(5月号) ・JOGMEC金属部門の技術戦略について(7月号) ・鉱害防止部門の新たな事業展開(7月号)	
【クォーターレビュー(四半期)】】H17年度～ ・主要メジャー企業の鉱山生産状況、探鉱開発状況、経営動向等をとりまとめて報告	【マテリアルフロー(2000年に発行)】 ・ベースメタル、レアメタル40鉱種について、需給、リサイクルの現状等の調査・分析を実施し、マテリアルフローをとりまとめる。 ・2003年版は17年6月に発刊予定。また、2004年版を年内に発刊予定。	【分野別調査研究】 ・中国動向 ・コモディティ市場分析報告(銅、鉛・亜鉛、ニッケル、貴金属)	
【新聞見出し情報(毎日)】 【世界のメタル動向(隔週)】	【メタル・マイニングデータブック2004(新規)】 ・鉱業便覧をメタル需給、各国事情などを入れた「非鉄資源関係者必携」的なものとする。 ・生産・消費・価格・貿易量等の詳細データ集も作成中。 ・17年6月に発刊予定。		
	【国際研究会アニュアルレポート(新規)】 ・鉛・亜鉛、ニッケルの生産見通しをとりまとめる。		
情報の受け手を意識した情報収集、調査研究、情報発信及び効率的な事業実施体制の構築			
アンケート調査分析	調査研究成果報告会(セミナー)の開催	HPの活用(内部監査指摘事項(経費削減)への対応)	組織内業務効率の向上
・H15、H16年度のアンケート結果の公表 ・HPにおけるアンケート実施システムの導入 ・結果分析を踏まえたH18年度計画策定	・成果報告会の開催(H16年度:1回、H17年度:毎月開催予定)	・HP発信情報のメールサービスの運用 ・海外調査データ検索システムのHPアップ(16年度事業、17年度以降海外構造事業のフォロー) ・地図検索システムのHPアップ	・海外事務所との電子会議室の運用

1. 平成16年度事業成果の概要

平成16年度は、必要に応じて発行回数や構成内容を変更する等、より分かり易い形での情報発信を行いました。

(1) 日常的な情報発信

主要資源国の鉱業事情や鉱業政策、中国をはじめとするBRICs諸国の非鉄金属需要拡大に伴う海外進出の動き、海外非鉄金属企業の買収・合併など、時々刻々と変化する非鉄金属鉱物資源の世界情勢について、定期的な情報発信を行いました。

「ニュースフラッシュ」(週1回発行)

企業や政府機関のプレスリリース、地元業界紙等に掲載されている事実関連情報について取りまとめ、最新の非鉄金属関連トピックスとして情報発信しました(平成16年実績48件、記事数893)。

「カレントトピックス」(週1回発行)

各種国際会議、海外セミナー参加、個別鉱山調査、非鉄金属鉱山企業・政府関係機関訪問等により入手した情報について、その背景や動向等も含めてレポートとして取りまとめ、情報発信しました。これまで不定期発行でしたが、週1回発行に変更しました。(実績58件)(表2)。



表2 2004年カレントトピックス発行実績

1月	2月	3月
[01]第4回フェリスカンジア探鉱・鉱業会議の概要 (ロンドン・霜鳥、本部・栗原) [02]フイリピンNational Mining Conference概要報告 (バンコク・市原) [03]中国輸出増徴税の還付率の調整(低減) 第1部 還付率調整の背景と非鉄分野への波及(前編) (北京・納)	[04]天然資源課税と地下資源利用ライセンスの改正を巡る動き (順調な経済成長を遂げる新興市場国ロシア) (アルマティ・酒田)	[05]アフリカ鉱業投資会議(INDBA2004)の概要について (ロンドン・嘉村) [06]中国輸出増徴税の還付率の調整(低減)後編 銅市場への影響(北京・納) [07]銅原料(銅鉱石、粗銅、スクラップ)に対する輸入増徴税還付と国内優遇制度とは(補則編)(北京・納) [08]マリ共和国、世界有数の産金国に躍進(本部・西川)
4月	5月	6月
[09]在欧大手鉱山会社の2003年の業績と探鉱動向 (ロンドン・霜鳥) [10]ロシア鉱業の現状と外国資本(ロンドン・霜鳥) [11]「Mineral Exploration Roundup 2004 in Vancouver」報告 (バンクーバー・中塚) [12]米国のマンガン合金鉄不足深刻化で関係者の思惑が交錯(デンバー・目次) [13]カザフスタン新投資法の制定と税制改正の鉱業投資への影響(アルマティ・酒田) [14]PDAC 2004 International Convention報告 (バンクーバー・中塚) [15]銅の鉱山生産動向 - 主要生産者の2003年生産実績と増産計画 - (ロンドン・霜鳥)	[16]2003年中国の非鉄金属対外貿易、活況かつ大幅輸入超過(北京・納) [17]世界銀行と鉱業の見直し - 産業界・政府とNGOで分かれる(EIR)評価 - (ロンドン・霜鳥) [18]国際鉛亜鉛研究会定期会合(2004年春)の概要報告 (ロンドン・嘉村) [19]銅の鉱山生産動向 - 第1四半期生産実績と需給予測 - (ロンドン・嘉村、霜鳥) [20]国際銅研究会総会(2004年春)の概要報告(ロンドン・嘉村)	[21]第6回国際金シンポジウム (Sexto Simposium Internacional del Oro)(リマ・辻本) [22]リオデジ(CVRD)、ノランダを買収か(本部・大迫、北、バンクーバー・中塚) [23]MOSCOW METALS SUMMIT報告(アルマティ・酒田) [24]ペルー・鉱業ロイヤルティ法成立(リマ・辻本)
7月	8月	9月
[25]ザンビア銅鉱業の現状と展望 - カッパーベルト復活の兆し - (ロンドン・嘉村) [26]BRICs諸国を巡る最近の鉱業の動向(本部・神谷) [27]中国のレア・アース政策動向と2003年需給動向(北京・納) [28]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年6月) (ロンドン・霜鳥)	[29]チリ鉱業ロイヤルティ法案、議会で提出(サンティアゴ・原田) [30]外国資本による中国ベネズエラ探鉱の現状と課題 (ロンドン・霜鳥) [31]鉱業国を目指すエクアドル(リマ・辻本) [32]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年7月) (ロンドン・霜鳥) [33]銅の鉱山生産動向 - 2004年前期生産実績と今後の生産能力の見直し - (ロンドン・嘉村) [34]カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州における鉱業投資環境改善の取組みの現状(バンクーバー・中塚)	[35]CIS諸国における鉱業法制リフォームの動き - ロシア、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタンの事例 - (アルマティ・酒田) [36]カザフスタンにおけるチタン産業の動向 - 急速なチタン需要の回復を担うロシアチタン - (アルマティ・酒田) [37]ペルー・Las Bambas銅鉱床の開発オプション権をXstrata社が獲得(リマ・辻本) [38]カザフスタンで活動する外資企業の動向(アルマティ・酒田) [39]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年8月)(ロンドン・霜鳥) [40]国際銅研究会第2回特別総会の概要報告(ロンドン・嘉村)
10月	11月	12月
[41]MINING WORLD CENTRAL ASIA 2004報告 (アルマティ・酒田) [42]ロシア地下資源をめぐる最新の動向 - 天然資源省の改組と地下資源法の改正 - (アルマティ・酒田) [43]国際鉛亜鉛研究会第49回年次総会概要報告 (ロンドン・嘉村) [44]LMEベースメタル価格急落(ロンドン、バンクーバー、本部) [45]国際ニッケル研究会2004年秋季会合が開催 - ニッケル供給不足は解消へ向かうと予測 - (本部・鈴木) [46]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年9月) (ロンドン・霜鳥)	[47]探査の新たな動きとベネシクデータの整備(本部・大迫) [48]中国の最近のベネズエラ及レアアース需給動向 - 第16回日中レアアース交流会議より - (本部・西川) [49]豪・探鉱開発における先住権問題の焦点(キャンベラ・神谷) [50]2005年ブラジンは7年ぶり、パラジウムは引き続き供給過剰に(本部・馬場、北) [51]銅の鉱山生産動向 - 主要生産者の2004年1-9月の生産実績と今後の生産能力の見直し - (ロンドン・嘉村) [52]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年10月) (ロンドン・霜鳥)	[53]豪州・鉱業管理規程の進展(キャンベラ・神谷) [54]中国の銅産業動向 - China International Copper Forum 2004報告(本部・神谷) [55]中国の銅消費、その勢いは何方へ? - 旧上海精錬所現地調査報告 - (北京・納) [56]ウズベキスタンの鉱物資源をめぐる最近の情勢 - 「改革」と「開発」の政策調和の課題 - (アルマティ・酒田) [57]大規模銅鉱山開発の新たな展開 - チリChuquibambilla鉱山露天採掘から坑内採掘への移行 - (サンティアゴ・中山) [58]ベネズエラの国際市場と需給動向(2004年11月) (ロンドン・霜鳥)

「金属資源レポート」(隔月発行)

海外事務所の所管国における鉱業事情等に関する現地レポート、本部で実施している調査研

究活動成果のほか、他の金属部門の活動状況報告など、資源機構金属部門の広報誌的な要素を盛り込んだ形で情報提供しました(表3)。

表3 2004年度金属資源レポート発行実績 (Vol.34 No.1 ~ No.6)

Vol.34 No.1 (5月)	Vol.34 No.2 (7月)	Vol.34 No.3 (9月)	Vol.34 No.4 (11月)	Vol.34 No.5 (1月)	Vol.34 No.6 (3月)
<p>【特集号】 世界の鉱業の趨勢 アジア州 中近東 ヨーロッパ州 アフリカ州 北アメリカ州 南アメリカ州 豪州</p>	<p>【レポート】 カナダ探鉱開発者による環境配慮探査電子マニュアル「E3」の紹介 米・アラスカ州の資源開発事情とPogo金鉱山開発認可を巡る騒動の顛末 第6回国際シンポジウム 中国の光と影、市場と資源 世界のレアメタル(1) 欧州を中心とした金属関連環境規制等の動向 酸化型銅金鉱床のワークショップ参加報告 メキシコにおける最近の探鉱及び開発の動向</p> <p>【紹介】 中国西部地域開発計画</p>	<p>【レポート】 フィリピンでの鉱業政策動向(バンコク・市原) 豪州鉱業界の実態 第1回APEC鉱業大臣会議 世界の銅資源埋蔵量について Minor Metals市場の動向 - Minor Metals 2004参加報告 - 南アフリカ共和国の鉱産生産 - 本邦企業の進出状況 - (世界のレアメタル(2)) 世界の鉱業の趨勢(追補) ・アルゼンチン ・チリ ・ブラジル ・スペイン</p> <p>【シリーズ】 レアメタルビュー2003(その1) ・マンガ、コバルト、バナジウム</p>	<p>【特集】 JOGMEC金属部門事業紹介 第1回:金属資源開発支援本部 【シリーズ】 世界のレアメタルシリーズ(3) ・世界のレアアース需給 レアメタルビュー2003(その2) ・ニッケル、クロム、モリブデン、タングステン 鉱業ロイヤルティ動向(1) ペルーの鉱業ロイヤルティ動向 【レポート】 ペルーの中期の産銅量見直し GFMS社の貴金属及びベースメタル・セミナー参加報告 中国、主要非鉄金属企業の紹介及び2003年の生産動向 モンゴル国、オトルゴイ現地調査報告 【市場分析】 ベースメタル国際動向(11月)</p>	<p>【特集】 JOGMEC金属部門事業紹介 第2回:金属鉱害防止支援本部 【シリーズ】 世界のレアメタルシリーズ(4) ・わが国とメキシコのストロンチウム需給状況 鉱業ロイヤルティ動向(2) 南アフリカ共和国の鉱業ロイヤルティ動向とその経済的影響 技協特集(1)アルゼンチン、先進的地質リモートセンシングプロジェクト 【レポート】 2003年の中国非鉄金属産業の回顧 経済発展が続く中国の原料手当動向 2004年の世界の探鉱動向とジュニア企業の現状 豪州ジュニア企業の探鉱開発状況 金属市場に関する展望 ・マイニングジャーナル他・セミナー報告 - 2004年のベースメタル企業の探鉱動向 【市場分析】 ベースメタル国際動向(12月)</p>	<p>【特集】 JOGMEC金属部門紹介 第3回:資源備蓄本部希少金属備蓄G 【シリーズ】 世界のレアメタルシリーズ(5) ・タイのタンタル 鉱業ロイヤルティ動向(3) チリの鉱業ロイヤルティ動向 技協特集(2)トルコ・リモセン Mining & Sustainability 1 【レポート】 カナダ・ジュニア企業の探鉱資金調達の実態 米物理探査学会報告 白金族金属の需給 - Anglo Platinum社は白金族資源の6割を占有 - チリにおける酸化鉱、硫化鉱の埋蔵量評価と供給可能性 レアメタル備蓄の歴史 2004年の亜鉛の需給動向 【市場分析】 ベースメタル国際動向(2月)</p>

(2) 継続的な調査研究

我が国企業等の海外資源ビジネス展開に必要な関連基礎情報やベースメタル需給動向等について定常的な取りまとめを行うと共に、リサイクル法の整備に伴って今後はリサイクル率向上が見込まれる非鉄金属もあることから、平成16年度から我が国における非鉄金属のマテリアルフローについても継続的にフォローすることとしました。

「世界の資源開発環境」(年1回更新)

非鉄金属生産状況、探鉱開発状況、鉱業政策など世界88ヶ国の資源国の鉱業関連基礎情報について網羅的に取りまとめたもので(ストック情報)、2005年6月頃にホームページ等で情報提供の予定です。

「鉱業の趨勢」(年1回発行)

世界の資源国60ヶ国を対象として、前年の鉱業活動状況(フロー情報)について海外事務所の機能を活用して取りまとめたもので、平成

16年度は金属資源レポート2004年5月号(一部について、2004年9月号)として発行しました。

「非鉄メジャーの動向」(年1回発行)

大手非鉄企業20社の企業戦略及び動向を分析することを目的として、経営状況、直近の活動状況等を取りまとめ、「非鉄メジャー2004」として2005年6月頃に報告書として発行予定です。

「ベースメタル国際動向」(金属資源レポート掲載)

銅、鉛・亜鉛、ニッケルの国際研究会等を活用しつつ、日常的な国際市況、需給動向調査を実施し、金属資源レポートに毎月掲載しています。

「マテリアルフロー」(年1回発行)

鉱物資源40鉱種について、原料確保形態、加工・製品化、リサイクルの流れを定量的に分析し、マテリアルフローとして取りまとめたもので、2005年6月頃に報告書として発行予定です。

「メタル・マイニングデータブック」(年1回発行)

40 鉱種を対象として、需給動向、生産・開発動向や国別情報、企業情報等非金属鉱業関連のエッセンスを集約した基礎的資料集で、2005年6月頃にデータ集として発行予定です。

(3) 特別調査研究

最近激しく変化している非鉄資源を巡るビジネス環境について調査研究を行い、情報発信するものです。

戦略的鉱物資源確保事業(投資環境調査)

平成16年度は、鉱物資源開発ポテンシャルが指摘されているにもかかわらず、鉱業制度の安定性、環境問題、先住民問題等から投資が停滞しているロシア、カナダ BC 州、豪州、中国において、投資阻害要因を特定し、実際に投資を行う際の留意点等の調査を実施しました。2005年6月頃に報告書として発行予定です。

「鉱業の持続可能な開発に関する世界動向と主要な取り組み」

APEC 鉱業大臣会議、国際金属鉱業評議会(産業界)など、鉱業の国際組織での鉱業の持続可能な開発に関する議論や企業の社会的責任(CSR)に関する世界の鉱山会社の動向を調査しました。報告書は、2005年6月頃に発行予定です。

非鉄資源ビジネスの変遷

世界における非鉄金属資源ビジネスの歴史、

供給・消費構造、技術革新の変遷や我が国の鉱物資源政策の変遷等についてレビューするもので、平成16年度は「銅」を対象として調査研究を実施しました。2005年6月頃に報告書として発行予定です。

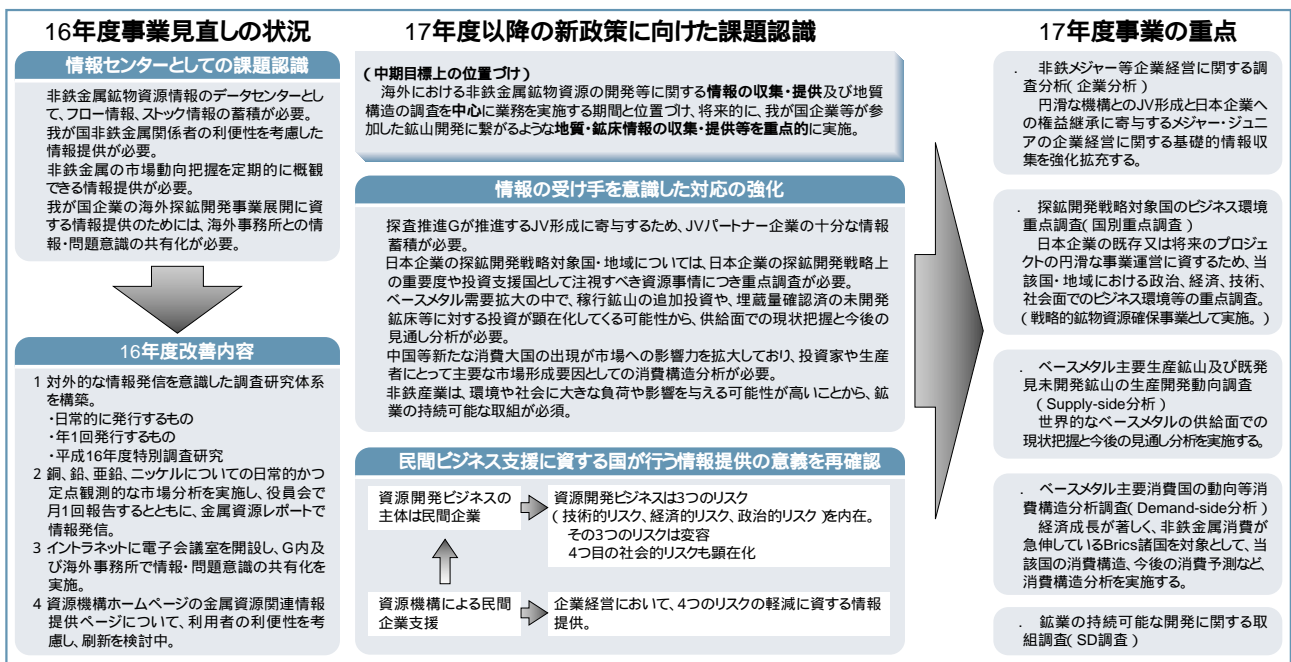
これら平成16年度の事業成果については、資源機構ホームページ上の「バーチャル金属資源情報センター」で閲覧することができます。ホームページアドレスは以下のとおりです。ホームページアドレス：
http://www.jogmec.go.jp/mric_web

2. 平成17年度事業計画の概要

本年度は昨年度に引き続き、「ニュースフラッシュ」、「カレントトピックス」、「金属資源レポート」の日常的な情報発信や「世界の資源開発環境」、「鉱業の趨勢」、「非鉄メジャーの動向」、「マテリアルフロー」、「メタル・マイニングデータブック」などの継続的な調査研究を計画的に実施するとともに、資源国との関係強化や我が国企業等のプロジェクト形成支援に資するため、資源国政府高官、海外非鉄金属企業幹部など有力者の招聘や資源機構金属部門の事業活動に係る情報発信の一環として、成果発表会を開催します。

また、平成17年度は、激動している非鉄金属資源情を踏まえ、活発化している我が国企業等の海外資源ビジネス展開を支援すべく、以下の重点調査研究等を実施します(表4)。

表4 中期目標期間における17年度以降の調査研究、情報収集・提供戦略の基本的考え方



(1) 平成17年度重点調査研究

非鉄メジャー・ジュニアの企業経営に係る調査分析・提供（企業分析）

資源機構自らが実施する共同資源開発基礎調査（JV調査）等調査案件形成の円滑な推進と活発化している我が国企業の海外探鉱開発投資に係る側面支援を目的として、非鉄メジャー・ジュニア企業の経営戦略、探鉱・開発戦略（経営方針、対象鉱種及び地域、鉱床規模、鉱床タイプなど）の情報収集を強化拡充します。

具体的には、継続的な調査研究として実施している「非鉄メジャーの動向」の発行に加え、本年度より主要メジャー企業16社の四半期経営報告、国際研究会のマクロ的な需給動向、海外事務所等を通じた現地情報等をベースとして、主要メジャー企業の鉱山生産状況、探鉱開発状況、経営動向等を取りまとめた「クォーターレビュー（仮称）」を四半期毎に情報発信するとともに、探鉱ジュニア企業等の経営戦略について、金属資源レポート等で紹介します。

探鉱開発戦略対象国のビジネス環境重点調査（国別重点分析）

平成16年度より実施している戦略的鉱物資源確保事業の一環として、これまで網羅的にまとめられていた「資源開発環境調査」及び「世界の鉱業の趨勢」について、平成17年度は我が国企業による探鉱開発戦略上の重要性から資源国をとらえ、対象国毎に重点調査項目を設定しつつ、政治面、経済面、技術面、社会面から整理し、「資源開発環境調査」、「鉱業の趨勢」に反映させます。

なお、「鉱業の趨勢」については、我が国企業が関心を有している国・地域や最近注目されている中国等アジア地域に重点化し、対象国を60ヶ国から46ヶ国に厳選して調査を実施します。

また、平成16年度同様、鉱物資源開発ポテンシャルが指摘されているにもかかわらず、投資が停滞している国において、投資阻害要因を特定し、実際に投資を行う際の留意点等の調査を実施します。

ベースメタル主要生産鉱山及び既発見未開発鉱山の生産開発動向調査（Supply-side分析）

世界的なベースメタルの需要拡大の中で、今後、生産中の鉱山の拡張計画や、ある程度の埋蔵量が確認されているものの経済的な理由から未開発の鉱床等に対する投資が顕在化する可能性が高く、世界的な鉱山開発の進展による我が国企業による権益確保の可能性が高まることが予想されます。

また、生産中の鉱山の状況についても、低品位化等の技術的なリスクの高まりや事故・スト等による生産変動、生産コスト上の価格競争力の程度等により、国際需給に影響を及ぼすことから、世界や日本への供給上、重要な位置を占める主要鉱山につき、定点観測的な情報収集を行います。（事業実施に当たっては、当機構金属技術グループにおける海外の資源開発技術の動向や課題の抽出・調査と密接に関連があることから、当該グループと連携して実施します。）

ベースメタル主要消費国の動向等消費構造分析調査（Demand-side分析）

世界のベースメタル需給を検討する上で、中国をはじめとする経済成長が著しい大消費国の動向が市場に大きな影響力を有するようになっていくことから、我が国企業の投資家・生産者にとっても、米国、中国、ロシア、インド、ブラジルなど大消費国の動向を注視する必要が高まっています。

国際研究会において、鉛・亜鉛研究会では、近年における中国の鉛・亜鉛市場の動向レポートが発行される予定であり、銅研究会では、世界の銅消費における中国ファクターに関する調査研究が開始予定です。また、チリ銅委員会（コチリコ）から日本との共同研究の提案もなされている等、世界的な関心が高まっている状況にあります。

このため、国内関係機関とも協力しつつ、海外事務所の情報収集機能を活用し、国内及び主要消費国の消費構造や需要予測等を行い、国内関係者への情報提供に努めるとともに、コチリコとの意見交換も併せて実施する予定です。

鉱業の持続可能な開発に関する取り組み調査 (SD分析)

持続可能な開発(Sustainable Development : SD)に関する政府、企業、国際的組織、市民社会等での認識が深まり、各種の取り組みが実施されています。

非鉄金属産業は、環境や社会に大きな負荷や影響を与える可能性が高いことから、他産業にも増してSDに関する取り組みが必須となり、併せて企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility : CSR)に基づく対応が求められています。

そこで、平成16年度に引き続き、産業界の国際的な組織や非鉄金属鉱山企業等におけるSDの自主的な取り組みやCSRに関する主要な活動等につき調査を実施します。

(2) 主要資源国政府高官や海外非鉄金属鉱山会社幹部の有力者招聘

資源国との関係強化や資源機構及び我が国企業の資源国におけるプロジェクト形成支援、資源国の鉱業政策や鉱業情勢等鉱業関連最新情報の入手を目的として、主要資源国政府高官や非鉄メジャー等海外有力企業の有力者を招聘します。

有力者の選定に当たっては、我が国企業から要望調査を実施する等、我が国企業の関心の高い国での探鉱開発を側面支援する方策も考慮しつつ検討します。

(3) 成果発表会の開催

資源機構金属部門の事業活動について、対外的に情報発信することを目的として、平成17年3月より月1回の成果発表会を開催する予定です。

開催日時については、随時ホームページ上に掲載するとともに、当日の配布資料についても報告会終了後、ホームページ上で閲覧可能としています。

また、この成果報告会においては、当グループが行っている事業以外の資源機構金属部門の活動成果についても、広く対外的に情報発信します。

【連絡先】

平成16年度成果概要及び平成17年度事業計画に係るご意見・お問い合わせ等の連絡先は以下のとおりです。また、非鉄金属全般に係るお問い合わせについても、Eメール及び電話で受け付けております。

担当：金属資源開発調査企画グループ調査チーム
本庄 電話：044-520-8668
Eメールアドレス：mric@jogmec.go.jp